

進捗状況の概要 【1ページ以内】**1. 全体状況**

本構想で掲げる「多様性の調和を目指す学融合型人間開発プログラム」(Sophia AIMS、以下SAIMS)及び運営体制を構築し、ASEANの連携大学との学生交流の促進にとどまらず、目標である「国際連携に基づく新たな国際高等教育モデルの構築」、「ASEANと日本の学生が共に学び合う協働教育のプラットフォームの提供」へと繋がる着実な一歩を進めることができた。

2. プログラム運営体制の構築

構想責任者である学術交流担当副学長を委員長とし、本構想の構築に携わった教員で構成する「SAIMS運営委員会」を設置し、プログラムの運営にかかる重要事項を決定する機関とした。さらにSAIMS専従の常勤教員2名、常勤職員2名を採用し、グローバル教育センター内にASEAN交流担当として配置して、同センターの専任職員と共にSAIMSプログラムの広報、学生の派遣・受入にかかる諸手続きの整備を行った。常勤教員はSAIMSプログラム新設6科目を担当。さらにRegistrarとして個別面談を通じ派遣・受入学生の学修支援を行う体制を確立した。また、派遣及び受入学生必修の「学融合型人間開発入門」は学内外の多種多様な教員による輪講形式で構築した結果、受講者数は当初の想定を上回る規模となり、ASEANからの留学生と日本人学生が協働する活発な授業が展開されている。また同様に、実地研修型ゼミナール「Human Ecology: Rivers」も予定どおり26年度から北海道の釧路湿原を舞台に開講され、26、27年度ともに15名(ASEANから26年は2名、27年は7名)の学生が参加してフィールドワークを行う等、順調に展開している。

3. プログラムの質保証、関係機関とのネットワーキング

SAIMSの本格稼働にあたり、運営委員会メンバーの教職員が出張し、AIMSレビューミーティングや、連携大学と個別に協議して交流の促進・改善を図る「プログラム開発協議会」に出席した。相互理解を深め、応募を促すとともに、派遣学生募集に必要な先方のプログラム情報を収集し、改善に向けた協議を行った。また高等教育の国際化をテーマに、SEAMEO-RIHED関係者や国内外の質保証にかかる専門家、連携大学の代表者等を招き2度にわたり国際協働教育シンポジウムを主催し、多様な学生を対象としたプログラムを効果的に運営するための教育手法や評価方法、視点を変える教育の重要性について広く議論を行った。

4. 学生のモビリティ

学生交流開始の初年度である26年度は3ヶ国6大学へ15名を派遣、3ヶ国4大学から8名を受け入れた。27年度は6月現在、派遣予定者は16名に留まっているが、受入はプログラム開発協議会、初年度留学生のフィードバック等が功を奏し、同年度春学期は22名を受入れ、秋学期にもさらに5名程度を受入れる予定。また交流促進の一環として、新たにマレーシア国民大学との連携を決定し、27年度より交流を開始する。

5. 外国人学生の受入、日本人学生派遣のための環境整備

英語対応可能な常勤カウンセラーを含む相談体制に加え、受入学生は大学直営の「祖師谷国際交流会館」に居住し、日本人学生や地域住民との交流を深めた。また、派遣学生には渡航前危機管理ガイダンスや、Registrar教員による個別の面談を通じて留学や学修計画を支援する体制を整えた。

6. 課題

特に派遣学生数の確保は喫緊の課題である。留学先は欧米志向が多い本学の学生に対して、ASEANへの関心を促進する多角的なアプローチを企画、検討していく。

【本事業における中間評価までの交流学生数の実績】

平成25年度				平成26年度			
受入		派遣		受入		派遣	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
0人	0人	0人	0人	25人	8人	25人	15人